

私は学生の頃から大西さんを存じ上げながらも、卒業後にPDになってからしばらく後にやっと大西さんと研究の議論ができるようになりました。Yonsei 大学の Su Houng Lee さんが基研に長期滞在されたときに、以前に Su Houng Lee さんと私がおこなった重イオン衝突でのペンタ・テトラクォークの生成の研究を元にして、系統的にマルチクォークやハドロン分子などさまざまなエキゾチックハドロンの生成に適用するという研究に参加して、本格的に大西さんと共同研究をさせていただきました。重イオン衝突でのエキゾチックハドロン生成は理論上のアイデアでしたが、大西さんが理論モデルや計算結果の解釈に悩みながらも力強く研究を進めて議論を形作って行く様子を間近に見ることができたことは私にとって大変大きな刺激となりました。お互いの数値計算の結果を突き合わせて遅くまで議論をして、私のナイーブな疑問に真摯に向き合っていたいただいたことをよく覚えております。私のような分野外で経験の浅い研究者でも他の人と分け隔てることなく接していただいたことは大西さんの懐の広さや温かさの表れだと思います。いまでも重イオン衝突でのハドロン生成に関する計算をすると、ふと大西さんと議論をしなければならないような気持ちにかられます。もう共同研究をさせていただくことができなくなってしまったことが非常に残念でなりません。本当にありがとうございました。

安井 繁宏 (広島大学 WPI-SKCM2)